CR500 取扱説明書　（V1.10 対応 追補版）

本機ソフトウェアーのバージョンアップ（V1.10）により、CD-DA の記録時に有効な「トラック・インクルメント機能」を追加しました（**注意：BWF の記録時は機能しません**）。

これは、CD-DAで記録中 [SHIFT] モードをオンにして [RECORD] キーを押すことで、新たなオーディオ・トラックを自動的に作成して記録する機能です。この機能を使うことで、ライブ録音のときなどに記録しながら曲ごとのオーディオ・トラックを作成することができます。

＜注意（重要です！）＞

トラック・インクルメント機能を実行すると、曲間に約100msec ミュート記録されます。そのため、この機能を使って作成したオーディオ CD を本機以外の CD プレーヤで再生すると、曲間にミュートがある状態で再生されます（ただし、CR500 で連続再生する場合は、ミュートがなくシームレスに再生されます）。そのため、ライブ録音などでこの機能を使うときは、必ず曲間や演奏の無い位置で実行するようにしてください。

[SHIFT] キー

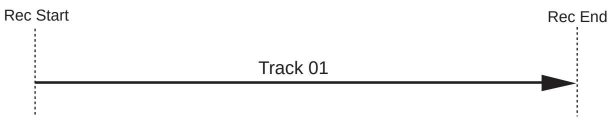


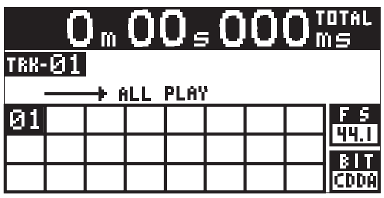
[RECORD] キー

＜注意＞：記録中、SHIFT モードをオンにして [RECORD] キーを押すと、一旦 SHIFT モードがオフになります。複数のトラックを増やす場合には、必ず [SHIFT] キーを押して SHIFT インジケータが点灯している状態で [RECORD] キーを押してください。

＜通常の記録＞

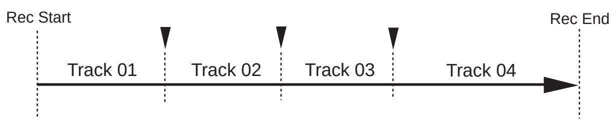
通常では、一度記録が終了することで１つのオーディオ・トラックがディスク上に作成されます。下記画面は、未記録のディスクへ記録終了後、REC READY をオフにしたときの画面です。

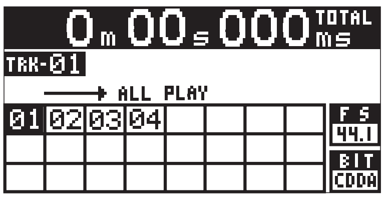




＜トラック・インクルメント機能を使った記録＞

トラック・インクルメント機能を使うと、一度の記録で複数のオーディオ・トラックを作成することができます。下記例のように、ライブ録音中無音の位置（矢印）でトラック・インクルメント機能を三回実行することで、４つのオーディオ・トラックが作成できます。下記画面は、記録終了後 REC READY をオフにしたときの画面です。





© PRINTED IN CHINA JANUARY 2007 8588098000 (457650)